

官民協働海外留学支援制度 拠点形成支援事業
活動実績報告資料

**<未来を描け！滋賀の海外留学応援
プログラム>
令和7年度活動報告**

■事業背景や事業目的

グローバル化の一層の進行やDX化などの技術革新による社会構造の変化が予測できない時代の中、様々な考えを持つ人々との対話を通じて、地域の課題に主体的に取り組む人材が求められている。その現状に鑑み、「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」を実施し、海外での「異文化体験」や「探究活動」を伴う留学を支援することを通じて、多様な体験と主体的に地域の課題解決に取り組むことができる「滋賀ならではの学び」を生徒に提供する。また、留学機運の醸成のために、帰国した生徒が留学の意義や成果、留学で得た体験を積極的に発信できる場を設定する。地域、企業、行政等が連携し、生徒の学びを支援することにより、社会課題解決に貢献する人材の育成と生徒の留学経験を次なる留学機運の醸成につなげる。

地域協議会基礎データ

【地域協議会代表者】

滋賀県知事

【運営事務局】

滋賀県教育委員会事務局高校教育課

【運営事務局の役割】

- ・留学プログラムの運営
- ・事業の進行管理
- ・事業に係る原案作成
- ・コンソーシアム各役員との連絡調整
- ・日本学生支援機構との連絡調整

【地域協議会の構成員及び役割】

(構成員)

- 会長 滋賀県知事
- 副会長 滋賀県教育委員会教育長
- 理事 滋賀県商工会議所連合会会長
- 理事 滋賀経済産業協会会長
- 理事 環びわ湖大学・地域コンソーシアム理事長
- 理事 滋賀県国際協会会長
- 理事 滋賀県高等学校長協会会長
- 理事 滋賀県私立中学高等学校連合会会長

(産学官の役割)

教育委員会事務局高校教育課が事務局を担い、地域、企業、行政等が連携し、生徒の学びを支援する取組を実施

■未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム 全体の概要



【事業目的】

高校生の海外留学支援を通じて、「グローバルな視点とローカルな視点を持って、社会課題解決に貢献する人材」、「様々な考えを持つ人々との対話を通じて、地域の課題に主体的に取り組む人材」を育成する。

【事業概要】

高校生の海外留学に奨学金等を支給するとともに、留学経験の質を高めるため、留学前後のオリエンテーションおよび留学後の継続的な学修や交流の場を提供する。

■地域探究コース概要

MLGs探究コース

「琵琶湖」を切り口とした持続可能な社会の実現のために、滋賀で策定した13の目標であるMLGsからテーマを定め、それらに関連する地域課題の解決や地域貢献に向けて探究するコース

- 1：清らかさを感じる水に
- 2：豊かな魚介類を取り戻そう
- 3：多様な生き物を守ろう
- 4：水辺も湖底も美しく
- 5：恵み豊かな水源の森を守ろう
- 6：森川里湖海のつながりを健全に
- 7：びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう
- 8：気候変動や自然災害に強い暮らしに
- 9：生業・産業に地域の資源を活かそう
- 10：地元も流域も学びの場に
- 11：びわ湖を楽しみに愛する人を増やそう
- 12：水とつながる祈りと暮らしを次世代に
- 13：つながりあって目標を達成しよう



壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■ 壮行会・事前オリエンテーション

令和7年6月14日（土）@滋賀県庁 派遣留学生54名が参加

【壮行会】

知事・教育長から生徒へ激励の言葉、派遣留学生代表生徒からの決意表明、支援企業の紹介、集合写真撮影を実施。

【事前オリエンテーション】

➤ 留学計画のシェア活動

派遣留学生同士で留学計画を発表し合い、自分の留学計画のブラッシュアップを図る。

➤ 支援企業との交流

「滋賀県の企業を通じて世界を知る」をテーマに、企業の方との交流を通じて滋賀県について学ぶ。

➤ 多文化共生についての講演

滋賀県の多文化共生の現状や異文化理解についての気づきを得る。

➤ 留学における安全管理についての情報提供

三日月知事・村井教育長からの激励の言葉



生徒と支援企業の方との交流



壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■ 留学事例①

➤ テーマ

「ファーストペンギンになってやる！
～湖魚の海外市場への販路を多様化するためのヒントを得る～」

➤ 現地での探究活動

カンボジアの首都にある日系食品商社でのインターンシップとカンボジアにおける食に対する調査を行うことを通じて、カンボジアで販路を多様化するためのヒントを得る。

➤ 留学先／留学期間

カンボジア・プノンペン / 8月2日～8月22日（21日間）



■ 留学事例②

➤ テーマ「持続可能な観光をニュージーランドから学び、エコツーリズムで滋賀県の未来を変える！」

➤ 現地での探究活動

オークランドの観光案内所の方へのインタビュー

地域の人々への観光教育やサステナブルな取り組みを行なっている施設 (Te Wharekura) のスタッフの方へのインタビュー

➤ 留学先／留学期間

ニュージーランド・オークランド / 7月21日～8月8日（19日間）





■事後オリエンテーション

令和8年1月24日（土）@大津市ふれあいプラザ 派遣留学生52名が参加

【コンセプト】

留学の成果報告会に向けた発表のブラッシュアップの場とするとともに、他の派遣留学生の留学状況について知る機会とすることで、自身の留学成果を振り返り、学びを深める機会とする。

【コンテンツ】

- セミナー「わかりやすい研究発表と見やすい資料の作り方」
立命館大学理工学部機械工学科 山末 英嗣 教授
- グループ活動
留学中の経験や探究活動の成果、アンバサダー活動についての共有とセミナーを受けて成果報告会の説明資料の再検討
セミナー講師である山末教授からも、グループ活動へ適宜指導助言。
- 事務連絡
 - ・ 留学報告書の提出について
 - ・ 成果報告会（2/7）の会場等についての連絡
 - ・ R8年度「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」への協力をお願い

壮行会
事前オリエンテーション

海外留学

事後オリエンテーション

報告会

■ 報告会

- 令和8年2月7日（土）@滋賀県庁 派遣留学生51名が参加
- 知事（副知事代読）・教育長から生徒へのメッセージ
 - 派遣留学生による留学成果報告
 - 支援企業や保護者、一般観覧者も来場（約46名）
- 成果報告への質疑応答の時間を通じて、交流の機会を創出。
派遣留学生が留学で得た学びを深めるとともに、留学成果を様々な人たちに還元。



岸本副知事・村井教育長からのメッセージ



生徒の発表の様子



中井 彩心 さん（米原高等学校）

- **留学先**
ニュージーランド・オークランド
- **留学期間**
7/21～8/15（26日間）
- **留学コース**
社会課題探究コース
- **留学テーマ**
「動物・植物・人の共存について学ぶ」
- **留学中の活動内容**
現地の自然保護ボランティアに参加し、外来種の調査や植生復元に繋がる取組を実践的に学んだ。
- **成果**
未知の環境に飛び込み、自らアクションを起こすことで揺るぎない自信を獲得。
- **派遣留学生の声**
日本語が通じず、自分の言いたいことがすぐに伝わらない中で、道に迷ったときや友だちをつくるときに、必死に英語で自分の気持ちを伝えました。失敗を恐れずに挑戦する姿勢が自分を成長させてくれるということを学びました。人と繋がる楽しさを知り、自分に自信をもつことができました。



問いに対する答え

- ・ニュージーランドでは自然を保護する取り組みが盛んに行われている
- ・人々の間で鹿とお肉の需要が高まるような、ニュージーランドならではの政策がある

考察

- ・ボランティア団体はSNS活用が活発で、たくさんのイベントが開催され、誰でも参加しやすい工夫をしている
- ・土地と畜産技術を活かして、国策として鹿産業に取り組んでいる



探究活動のスライド

山田 惺 さん（膳所高等学校）

- **留学先**
カナダ・バンクーバー
- **留学期間**
7/28～8/22（26日間）
- **留学コース**
MLGs 探究コース
- **留学テーマ**
「自然と都市の共存の仕方を学び、将来的に多くの人々が住みやすい滋賀に何が必要か考える」
- **留学中の活動内容**
都市と自然が共存するバンクーバーで人々の環境保全意識と公園の利用実態についてアンケート調査を実施。
- **成果**
五感を通した「ライブ感」のある学びと、単独で行動する自信獲得。
- **派遣留学生の声**
最初はすべて英語での会話に挫折しましたが、チャレンジ精神を忘れずに取り組んだ結果、現地での探究活動もスムーズに行うことができ、なにより一人で行動することへの自信ができました。私が考える留学の価値は、現地だからこそ「生の体験（ライブ感）」にあると考えています。



留学の価値

私にとって留学は、

自分の弱みを見つけ、克服することで人生を豊かにしてくれるもの

探究活動のスライド

■支援企業

【支援をしようと思った理由】

- ・ 円安環境、若者の内向き指向などもあり、海外へ出ようとする若者が減ってしまうことは、日本の人材育成にとって大きなマイナス。**産官学の連携で将来への「投資」を進める必要がある**と考える。
- ・ 学生が幅広い視野や経験をするために、費用面で諦めてしまうのは非常にもったいないと感じる。この制度を活用していただければ、**将来的に地方創生のきっかけになる**と考えている。

【感想・評価】

- ・ 全ての高校生が単なる海外への憧れだけでなく、**滋賀県への還元姿勢を持っていけることが頼もしく感じられた**。**外から日本を見つめる体験がいかに大切かという事を改めて気付かせてもらい**、弊社の接客姿勢にも大きな示唆を与えてくれたと感じる。
- ・ **とても素晴らしい取組**であると感じている。事前オリエンテーションのOB・OG留学体験発表は、会社の社員にも聞いてもらいたい内容だった。



事前オリエンテーションでの交流の様子



成果報告会の様子



■高等学校関係者

【感想・評価】

- ・本校でも留学を希望する生徒は多いが、昨今の経済事情により留学費用が高騰し、チャンスを失っている生徒が多く感じる。奨学金のおかげでチャンスをつかめている生徒も多いので、ぜひ多くの生徒に勧めたい。
- ・壮行会において、代表生徒の決意表明が素晴らしかった。
- ・事前オリエンテーションで派遣留学生同士の探究発表や協賛をいただいている企業様から直接お話を聞く機会はとても貴重な経験になったと思う。
- ・協賛企業の方々からの自社の地域貢献やグローバル戦略を聞くことで、生徒は自身の留学計画をよりブラッシュアップできると思った。

■保護者

【感想・評価】

- ・個人の留学でも十分に素晴らしい経験を積むことができるが、立案計画、自分は何がしたいのか、自分とは？等掘り下げる必要があり、考える抜く作業が必要であり個別の留学より深いものになる。
- ・高校生は生活面でも精神面でも自立していない子が多いと思う。留学を通し自立心を養い、自分自身で問題を解決する力をつけるのに必要だと思う。
- ・事前オリエンテーションにおいて、他の学校の参加生徒との交流が刺激になったようである。
- ・事前オリエンテーションにおいて、派遣留学生同士の交流により、計画を進める中で困ったこと、悩み、不安などをお互い共有できて安心材料になったのではないかなと思う。
- ・支援企業様から、グループ順に仕事内容や滋賀県での活動、青年への期待等を生徒に話していただき、近くで聞いている保護者として、学生がキャリア教育について関心が持てたと思う。

【県全体の留学機運醸成の進捗】

- 日本学生支援機構の「トビタテ！留学JAPAN」で
留学した生徒数

H27（第1期）：1名、H28（第2期）：3名
H29（第3期）：6名、H30（第4期）：1名
R1（第5期）：4名、R3（第7期）：4名
R5（第8期）：10名、R6（第9期）：4名
R7（第10期）：3名

10年間 計36名

- 「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」
で留学した生徒数

R6（第9期）：**38名**、R7（第10期）：**56名**
2年間 計94名

- ・これまでと比較して、留学を希望する多くの
生徒に留学の機会を与えることができた。

- 「未来を描け！滋賀の海外留学応援プログラム」
成果報告会

支援企業等一般観覧者参加者数

R6：**60名**、R7：**46名** 2年間 計106名

【派遣留学生のデータ】

- 公立・私立

公立17校42名（75%）、私立8校14名（25%）

- 学校名

- ・公立学校（50音順）

石山高等学校、大津高等学校、河瀬高等学校、
草津東高等学校、国際情報高等学校
湖南農業高等学校、膳所高等学校、玉川高等学校、
虎姫高等学校、東大津高等学校、彦根工業高等学校
彦根翔西館高等学校、彦根東高等学校、米原高等学校、
水口東高等学校、守山高等学校、八日市高等学校

- ・私立学校（50音順）

R高等学校、綾羽高等学校、近江高等学校、
近江兄弟社高等学校、滋賀学園高等学校
比叡山高等学校、MIHO美学院中等教育学校、
立命館守山高等学校

- 留学先地域

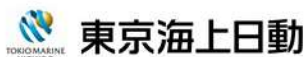
アジア9名（16%）、オセアニア10名（18%）
北米 17名（30%）、ヨーロッパ20名（36%）

- 留学テーマのジャンル

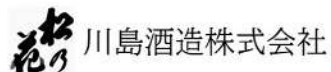
LGBTQ、SDGs、伝統の継承、幸せな教育の形
林業での地産地消、持続可能な観光、動物愛護
湖魚の販路開拓、日韓関係
食品ロス軽減、ダンス・アート

■支援企業一覧

公益財団法人
河本文教福祉振興会



鉄屋商事株式会社



有限会社 T&S

塚本サルチャー様

匿名3者